

<裏切りのない世界へ>

【主の道】 ヨハネ福音書14:6に“わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。”とあります。ここにある道というのは、文字通り道です。私たちが、その上を歩いている、通っている道のことです。“私の上を歩いて行きなさい”と仰っているのです。その道は正しいところに、行き着くことのできる道なのです。私たちは遠慮なくキリストの道を進んでいるでしょうか。先に御言葉から聞きましたが、それは“あなた自身の十字架”という、主の十字架です。また、それは“負いやすく軽い”と語られるのです。それどころか、この道は恵みの道の意味します。誰だって“日毎の糧”のために祈り、“日々の手の業が祝福されること”を祈ります。この姿が、“あなたに与えられた、あなたにふさわしい十字架”と語られる信仰者の生活なのです。与えられた十字架を背負う代わりに、罪と優越感・劣等感を背負って、私たちが生きたとしたら、その道は暗いものになります。

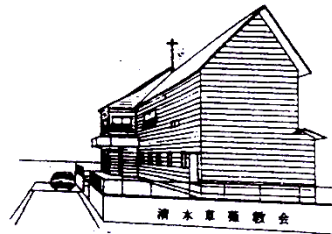
【私たちの祈り】 私たちは、おそらく祈るでしょう。世界がキリストを受け入れ、教会の働きが多いに成長するようにと。“御心の天で行われるごとく”とです。けれども、よくお祈りしてみましょう。殆んどが、あえて分けるなら、世界のことなどではなく、私を妨げている現実から救い出して下さい、現実を変えてください、と祈ることでしょう。おおいに祈ればよいのです(願いを起こさせ、実現に至らせてくださるのは神だからです)。その先に広がる、キリストの恵と、信仰者の幸を見出し、解決の道が示されるのです。

【艱難に感謝】 パウロは“あなた方の艱難を知って、神に感謝している”と別の箇所で言っています。どんな意味でしょうか。どこかで聞かされた言葉かも知れませんが“人の不幸を喜ぶのが世間”という意味ではないのです。兄弟の不幸を知って、感謝できない魂が、今の世には多いのです。パウロはこう言うのです。“あなた方が苦しんでいることを知って、私も悲しいと思う、この悲しむことのできる心の、他ならない自分の内にあることを知って、授けてくださった神に感謝する”というのです。東日本大震災の中で救援活動を始めましたが、きよめられた心を求め、共に悲しむ事が出来たら、神に感謝すべきです。今の世は“今はあなたたちの時で、闇が力を振るっている”時なのです。しかし、今もいます主は、やがて御自身の時の来ることを、語っておられます。“私の時はまだ来ていない”と語られたのは、この神の使命のことなのです。その使命はあがないです。“我々は皆、確実に死にます”な、何回確認しても教会は成り立ちません。その先に確実にある復活に期待するのが教会なのです。

【教会の働き】 震災で、苦しんでいる人は、現実から出発しなくてはなりません。それを私たちは、どのようにみるでしょうか。静岡には被害が及ばないようにと願ってみても、そこにキリストは見えません。被害にあった人々を覚え、主に感謝することにはならないのです。その意味はもう先に述べましたが、闇の世に支配者と従う者、教会とメンバーをはっきりと分けるところの一つなのです。“祈りの輪”が今期作成されませんでした。“たいへんでお祈りどころではない”という意味ではありません。私たちは、祈るべき教会の祈りを、求めなければならないのです。今はキリストの時なのです。

週報

2011年 4月 17日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042